

園芸タイムリー情報

《9月中・下旬版》

平成30年9月18日発行 第9号
 【上川農業改良普及センター】
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

全作物共通

- ①病害虫の発生には、引き続き注意しましょう。
- ②今後、日中の急激な昇温や夜温の低下に対し、品目ごとに適温確保を図り生育促進に努めると共に、換気等でハウス内の湿度を低下させ、病害の発生を防ぎましょう。
- ③暴風が予想される際は、事前にハウスの点検、補強を行いましょ。ビニールが緩んでいると強風にあおられ、被害が生じやすくなります。
取り付け金具・ハウスバンドの締め直し、側杭の補強等を行いましょ。
- ④農作業事故等が発生しないよう、機械整備や体調管理には十分留意しましょ。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	あぶらな科野菜全般	作物名	あぶらな科野菜全般
病害虫 生理障害名	コナガ成虫	病害虫 生理障害名	カタツムリ
コナガ		ナメクジ類 カタツムリ類	
発生状況		発生状況	
少発生		少発生	
発生時期		発生時期	
6月上旬～	コナガ幼虫	6月中旬～	ナメクジ
発生の状況・要因		発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が葉の表皮を残して食害する。 発生は減少しているが、引き続き注意する。 		<ul style="list-style-type: none"> 葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となる。 雨上がりや夜間は活発に活動する。 9月も引き続き被害が見られることから、今後も注意が必要である。 	
対策		対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場内外のあぶらな科雑草をこまめに除草する。 防虫ネット（目合い1.0mm）の効果を高めるため、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。 シアミド系（プレバソフフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 		<ul style="list-style-type: none"> ほ場周辺の雑草はすみかとなるため、こまめに除草する。 スラゴを使用する場合はほ場周辺の雑草地に散布し、作物に直接付着しないように気をつける。 ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所に好んで生息することから、これらの場所へ重点的に散布する。 	
<防除の一例> ●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時			

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病害虫生理障害名		
オオタバコガ		
発生状況	食入痕(上)と幼虫(下)	
少発生		
発生時期	成虫	
7月中旬～		

発生の状況・要因

- ・9月上旬からヨトウガと同時に発生が見られている。
- ・ヨトウムシ類のように集団での食害は行わず、ハウス内でまばらに見られ、1個体が複数の果実を食害する。

対策

- ・生長点や果実の食害や虫糞に注意して発生を確認する。
- <防除の一例：ピーマン>
- アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
※ミヤコカブリダニ(スパイカル)に悪影響がある。
 - フェニックスジェット(施設栽培のみ)
くん煙50g/400m³(床200m²×高さ2m)
収穫前日まで 2回以内
 - トアローフロアブルCT 500~1,000倍
発生初期ただし収穫前日まで 回数制限無し
- <防除の一例：ししとう、なんばん>
- プレバソフフロアブル5 1,000~2,000倍
収穫前日まで 3回以内



作物名	トマト類(大玉、ミニ、中玉)	
病害虫生理障害名		
うどんこ病		
発生状況	葉表に発生したかび	
少発生		
発生時期		
8月上旬～		

発生の状況・要因

- ・昨年に比べて発生が多く見られている。
- ・葉の表面にうどんこを振りかけたようにかびが密生している。
- ・激しく発生すると果柄・へたなどにも発生し、商品価値が低下する。
- ・20~25℃の乾燥条件で発生しやすい。

対策

- ・発生が確認されたほ場は早めに薬剤散布を実施する。
 - ・被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。
- <防除の一例>
- ハーモメイト水溶剤 800~1,000倍 収穫前日まで 回数制限無し
 - パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
※トリフミン水和剤と同一成分(トリフルミゾール)を含む混合剤




作物名	トマト類(大玉、中玉、ミニ)	
病害虫生理障害名		
灰色かび病		
発生状況	枯死した茎葉や花がらに発生し果実へ感染する	
中発生	被害果実	
発生時期		
4月下旬～		

発生の状況・要因

- ・昼夜の温度差が大きくなり、結露による果実の濡れや過湿から発生が増加する。
- ・発病適温は20℃前後で、多湿時や茎葉の過繁茂で風通しが悪くなった場合に発生が増える。
- ・夜温が低く、朝に果実が結露するような状況で腐敗果が増加する。

対策

- ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
 - ・日の出後、ハウス内の気温が急激に上昇すると夜間に冷えた果実に結露が生じるので、短時間でも早朝から換気による温気抜きを行う。
 - ・設備がある場合には日の出前の加温による結露防止や送風による湿度低下も有効である。
 - ・薬剤耐性の発達を防ぐため、同一系統薬剤は連用しない。
- <防除の一例>
- フルピカフロアブル 2,000~3,000倍 収穫前日まで 4回以内
 - ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000~3,000倍 収穫前日まで 3回以内
 - アフエツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

作物名	トマト類(大玉、ミニ、中玉)	
病害虫生理障害名		
オオタバコガ		
発生状況	食入痕(上)と幼虫(下)	
少発生		
発生時期	成虫	
7月中旬～		

発生の状況・要因

- ・9月上旬からヨトウガと同時に発生が見られている。
- ・ヨトウムシ類のように集団での食害は行わず、ハウス内でまばらに見られ、1個体が複数の果実を食害する。

対策

- ・生長点や果実の食害や虫糞に注意して発生を確認する。
 - ・成長した幼虫には薬剤が効きづらいので、発生初期から防除を行う。
- <防除の一例>
- アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内
 - スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 2回以内
- <防除の一例：施設栽培の大玉トマトのみ>
- フェニックスジェット くん煙50g/400m³(床200m²×高さ2m) 収穫前日まで 2回以内

作物名	ナス科果菜類（トマト・ピーマンなど）	
病害虫生理障害名		
ヨトウガ類		
発生状況		
中発生		
発生時期		
6月上旬～		

発生の状況・要因

- 8月下旬から発生が増えている。
- 初期は緑色の幼虫が日中も葉裏や生長点付近に見られるが、老齢幼虫は茶褐色になる。
- 成長した幼虫は花や果実を食害する。

対策

- ほ場を観察し、防除を実施する。
- オオタバコガの発生も見られているので同時に防除を行う。

作物名	パセリ
病害虫生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
8月上旬～	

発生の状況・要因

- 9月以降発生が目立ってきており、今後も注意が必要である。
- 葉の表面がうっすらと白いかびに覆われる。
- 20～25℃の乾燥条件で発生しやすい。

対策

- ほ場をよく観察し、発病初期に防除する。
- 発病の進んだ葉は摘み取って、ほ場外へ搬出する。

<防除の一例>

	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
●クムラス	500～1,000倍	—	—

- 少発生時：1,000倍で収穫後に散布。
- 中発生時：500倍で収穫後散布。
1,000倍で収穫後と収穫数日前散布。
- 多発生時：500倍で収穫後と収穫数日前に散布。
- 葉部は細かい切れ込みや凹凸があるため、薬斑が残りやすい。
クムラス使用時は展着剤を必ず使用し、散布水量は流れ落ちない程度（10aあたり200ℓ以下）とする。

作物名	アスパラガス	
病害虫生理障害名		
ヨトウムシ類		
発生状況		
発生に注意		
発生時期		
8月中旬～ 第2世代		

発生の状況・要因

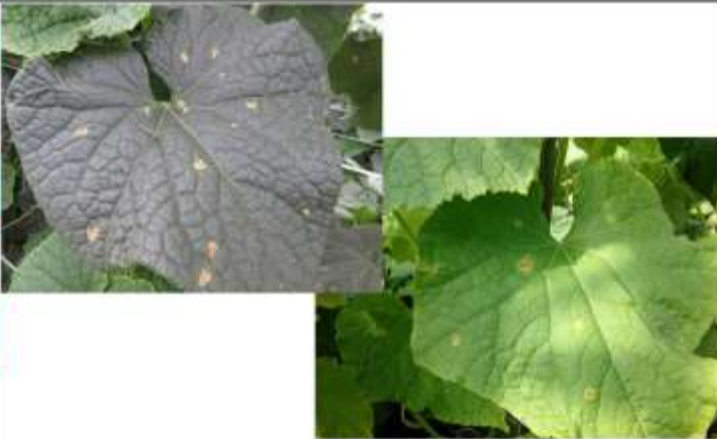
- 今後、第2世代幼虫の発生が予想されるので注意する。
- 幼虫は擬葉を食害するが、大発生し擬葉を食へ尽くすと、莖や側枝の皮を食害するためアスパラガスのほ場が白く見える。

対策

- 防除適期を逸すると被害が拡大するため発生初期に確実に防除する。
- 大発生し被害が大きいほ場では、来年の春芽収穫が過収穫にならないように気を付ける。

<防除の一例>

●コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
●アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
●フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで	2回以内

作物名	きゅうり
病害虫生理障害名	
褐斑病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
7月中旬～	

発生の状況・要因

- 葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。
- 草勢が衰えている場合に多発しやすい。
- ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことがあるほ場では特に注意が必要となる。

対策


- 適正管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。
- ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。
- 薬剤耐性の発達を防ぐため、同一系統薬剤は連用しない。

<防除の一例>

●ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	8回以内
●ゲッター水和剤	1,500倍	収穫前日まで	5回以内
●カンタスドライフロアブル	1,500倍	収穫前日まで	3回以内

作物名	花き全般												
病虫害生理障害名	 <p>密度が高くなり汚れが目立つ状態(きく)</p>												
アブラムシ類													
発生状況													
中発生													
発生時期													
7月下旬～													
発生の状況・要因													
<ul style="list-style-type: none"> ・秋季では夏季よりさらに発生が多くなる。 ・生長点付近の葉の寄生が多い。 ・薬剤抵抗性がつきやすく、防除適期を逃すと難防除となることが多い。 													
対策													
<ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除が肝心で、密度が高くなると防除が困難になるとともに、死骸が葉に付着したり、脱皮殻等の汚れが目立つので注意する。 													
<p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●スタークル顆粒水和剤</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●コルト顆粒水和剤</td> <td>4,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>4回以内</td> </tr> <tr> <td>●チェス顆粒水和剤</td> <td>5,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>4回以内</td> </tr> </table>		●スタークル顆粒水和剤	2,000～3,000倍	発生初期	5回以内	●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内	●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内
●スタークル顆粒水和剤	2,000～3,000倍	発生初期	5回以内										
●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内										
●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内										

作物名	花き全般												
病虫害生理障害名													
ヨトウガ(幼虫)													
発生状況													
発生に注意													
発生時期													
7月上旬～													
発生の状況・要因													
<ul style="list-style-type: none"> ・成虫は葉の裏に卵塊(50～150個程度)を産み、孵化した幼虫は薄皮一枚残して食害する。 ・この頃の幼虫は緑色の2～3mm程度の大きさで、尻部から糸を出し拡散する。 ・成長につれて食害が大きくなり、花蕾部まで食害するようになる。 ・老齢幼虫は3cm位の大きさで、体色は緑～茶色。 													
対策													
<ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除する。 													
<p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●アフーム乳剤</td> <td>1,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●コテツフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●アディオン乳剤</td> <td>2,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>6回以内</td> </tr> </table>		●アフーム乳剤	1,000倍	発生初期	5回以内	●コテツフロアブル	2,000倍	発生初期	2回以内	●アディオン乳剤	2,000倍	発生初期	6回以内
●アフーム乳剤	1,000倍	発生初期	5回以内										
●コテツフロアブル	2,000倍	発生初期	2回以内										
●アディオン乳剤	2,000倍	発生初期	6回以内										

作物名	花き全般
病虫害生理障害名	 <p>発病によるがくの変色(スターチス・シヌアータ)</p> <p>生長点の枯死(きく)</p>
灰色かび病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
生育期間中	

発生の状況・要因												
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、天候不順より多発する可能性があるので注意する。 ・きくでは、わき芽かきや摘蕾などの管理作業後より発生しやすい。 ・スターチス類では、がくや採花後の切り下また下葉枯れの部位より発生する。 ・トルコギキョウは花卉が侵されることが多く、水浸状の「花しみ」となる。 												
対策												
<ul style="list-style-type: none"> ・朝、ハウスを早めに開放し、結露を早く乾かす。 ・循環扇による送風の実施。 ・予防防除の徹底。 												
<p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●セイビアーフロアブル20</td> <td>1,000倍</td> <td>発病前～発病初期</td> <td>4回以内</td> </tr> <tr> <td>●フルピカフロアブル</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>発病初期</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●ファンタジスタ顆粒水和剤</td> <td>3,000倍</td> <td>発病初期</td> <td>5回以内</td> </tr> </table>	●セイビアーフロアブル20	1,000倍	発病前～発病初期	4回以内	●フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	発病初期	5回以内	●ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	発病初期	5回以内
●セイビアーフロアブル20	1,000倍	発病前～発病初期	4回以内									
●フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	発病初期	5回以内									
●ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	発病初期	5回以内									

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
 なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
 気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
 (不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
 ※掲載されている農薬情報は、平成30年8月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■
 【農作業事故防止編】 ー農作業事故防止は日頃の安全確認からー

- ・農機の点検や清掃、異物除去等を行う際には、必ずエンジンを停止しましょう。
- ・危険な場所(ほ場内や施設内等)が無いのか、日頃から確認を行いましょ。
- ・危険を伴う作業(草刈りや高所作業等)を行う際は、安全確認を必ず行いましょう。
- ・お互い声かけできる範囲内で作業を行い、なるべく「ひとり作業」は控えましょう。
- ・高温時の作業は十分な休憩と水分補給を行い、熱中症を防止しましょう。



点検整備は、必ずエンジンを停止してから